

あとがき

本小冊子「インクルーシブ社会研究」第3号は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」プロジェクトの開始にあたり開催された、キックオフミーティングでの基調講演とパネルディスカッションの内容をまとめたものです。

本学ではこれまで、人間科学研究所を中心として、ヒューマンサービス分野で地域にひらかれた研究を展開してきました。学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザイン」、オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築」などを通じ、高齢者、障害者（児）、（男性）介護者、といった人たちのウェルビーイングの向上を目指す基礎的・実践的研究を実施してきました。さらに2012年度に活動を開始したR-GIRO「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点（法心理・司法臨床センター）」では、法学・心理学・社会学・情報学などを元にした学融的な研究と、司法・臨床に携わる実務家との連携によって、司法被害者サポートや加害者臨床といった、社会包摂的な総合的支援のための実践的研究に取り組んでおります。

本プロジェクトでは、上記のような本学の特色と現在に至る研究・実践の実績を踏まえ、私立総合大学として本学が持つ豊富な知的資源の更なる結集を図ると共に、地域で様々な現実課題に関わる実践家・実務家との協働を追求することで、インクルーシブ社会に向けた研究と実践の新しい枠組みを創り上げることを目指しております。そのキックオフミーティングでの議論をまとめたこの小冊子が、我が国の歴史的・社会的文脈に即したインクルーシブ社会の実現にむけた、新たな研究や社会実践のきっかけとなることを願っております。

最後となりましたが、本プロジェクトの事務局としてご尽力いただきました、立命館大学研究部リサーチオフィス（衣笠）の難波しのぶ氏、片山詩朗氏、荻野純子氏に厚く御礼申し上げます。

2014年4月20日

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」

代表 稲葉 光行